

住みよい まちづくり通信



道町連 No. 94

●発行日 令和元年12月10日
●発行 一般社団法人 北海道町内会連合会
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
かでの2.7
☎(011)271-3178 FAX(011)271-3956
E-mail : info@d-choren.or.jp

ホームページ検索



▲主催の挨拶をする北海道町内会連合会 長谷川会長

共に生きる地域づくりをめざして

令和元年度ブロック別町内会活動研究大会の報告

令和元年度ブロック別町内会活動研究大会が道内4ブロックにおいて、町内会関係者約650名の参加を得て開催されました。
大会は、本会からの基調説明のほか、講演はブロック別に講師を招き、「安心・安全な地域づくり」をテーマにご講演いただきました。
その後の分科会は、各開催地で選択したテーマ別に、実践報告を受けて協議を行い、最後に分科会報告が行われました。

道央

とき：9月10日・11日
ところ：ニセコ グラン・ヒラフ

●講師 小町 美穂 氏（一般社団法人北海道建築士会理事 / 被災地応急支援委員長）



胆振東部地震における被災地での被害状況や二次災害を防ぐための建築物の被災度の判定のほか、寒冷地における応急仮設住宅の様子などをお話いただきました。また、道内で想定される地震の規模や建築物の被害などを踏まえて、実際に災害が起きた時のために、どのように備え、対応するのかを建築士として専門的な立場からご提言いただきました。

道東

とき：9月19日・20日
ところ：ANAクラウン
プラザホテル釧路

道南

とき：10月23日・24日
ところ：北斗市総合文化
センター「かなでーる」

道北

とき：11月22日・23日
ところ：新富良野
プリンスホテル

●講師 松本 行真 氏（近畿大学総合社会学部准教授）



津波被災から復興期までの取り組みとして、福島県いわき市薄磯区の事例をもとに、被災地におけるボランティア等の外部支援者との関わりのほか、普段からの地域のコミュニケーションのあり方について、先生の体験談を交えながらご提言いただきました。

北海道胆振東部地震から1年が経ったタイミングで復興とコミュニティの重要性についてお話をいただき、普段からの災害に対する覚悟や心がけについて考える大変貴重な時間となりました。

目次

令和元年度ブロック別町内会活動研究大会の報告 1～4
ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動 5
災害に強いまちづくり全道運動 5

令和元年度町内会活動実践者研修会の報告 6～7
道町連からのお知らせ 8

分科会

町内会の福祉活動 について考える

道央
～生きがい育む福祉ボランティア活動～

はじめに、倶知安町琴和町内会より、町内会で実施している福祉ボランティア活動について報告がありました。琴和町内会の「ちよつとしたボランティアの活動」および「よばら」では、冬の間除雪困難な高齢者宅の除雪支援と安否確認を実施。「倶知安町雪はねボランティアツアー」では、札幌からボランティアの人たちと地元100名以上で雪かきを通じたふれあい交流についての報告がありました。また、「虹の会の活動」として、町内会員による特別養護老人ホームの花壇の手入れや車いすの清掃のほか、入居者との食を通じた交流の様子や、町内会の老人クラブが主宰している「ひまわりの会」でのサロン活動など、地域全体の取組みなど無理をしない福祉活動の様子の報告がありました。その後の意見交換では、参加者から各地域のサロン活動や見守り活動について事例報告がある中、参加者からは、琴和町内会の事例報告が大変参考になったとの声が多く、今後、地域住民にとって生きがいになるようなちよつとしたボランティア活動を無理せず取り組んでいくことが確認された分科会となりました。



道東
～引きこもり対策としてのサロン活動～

はじめに、釧路市春採下町地区連合町内会より、引きこもり対策としてのサロン活動について報告がありました。春採下町地区連合町内会では、地区連合会主催の「いきいきサロン」を開催していましたが、会場までの道のりが遠く、参加が困難であることや内容のマンネリ化により参加者が減少したことを受け、連

合町内会主催の「いきいきサロン」を廃止し、町内会独自でサロン活動に取り組むようになりました。中でも、第一曙町内会は、婦人部と福祉厚生部が中心になり、近所のお庭のお花を見せて頂きながら軽く談笑する「お庭鑑賞会」や健康維持と認知症予防を目的として、工作物や手芸、脳トレなどをサロンに取り入れているそうです。



その後の意見交換会では、各地のサロン活動の取組みや様々な活動内容について、サロンの会場が遠いと、サロンに行きたくても行けないことから、近くの会場が好ましいという意見や、自治会、社会福祉協議会、民生委員との連携した取組みについての報告がありました。また、高齢者の見守り、支援活動の取組みについてのお話もありました。そして、サロン活動では、引きこもりをなくしたいことや安否確認などを行い、いきいきと活動できる場であることから、これからもこの活動を大切にしていける必要があるということを確認しました。そして、行きたくても行けない、参加できない人には、参加してもらえないにはどのような活動をするか、いか、これからも多様な取組みが必要との声が多くありました。

道南
～サロン活動で互いの顔が見える暮らしを実現～

はじめに、北斗市茂辺地町内会で実施している「わくわくサロンひだまり」の活動について報告がありました。地域で互いの顔が見える暮らしを実現するために「わくわくサロンひだまり」を発足。このサロン

は、町内会役員と民生委員児童委員や老人クラブ等で構成されており、元気に安心して暮らすための健康を意識したりハビリ教室やクリスマス会、医療講演のほか、就活セミナー等も開催しているそうです。さらに、国際交流のつどいとして、北斗市で実施している海



外交流事業でホームステイしている外国人を地域に招待し、浴衣を着ての盆踊り大会に参加するなど、日本文化の発信にも一役買っています。参加者からは、サロン活動の運営費についての質問には、会員からの月2000円の会費のほか、社会福祉協議会からの補助とバザーでの収益で運営しているとの回答がありました。

その後の意見交換会では、各地域でのサロン活動の取組み状況について報告があり、地域でサロン活動を運営するのが難しく一旦休止している。年々サロンの参加人数が減っているなどサロン活動運営に苦労している声が多くありました。

道北
～サロン活動を通して地域のふれあいを～

はじめに、富良野市連合町内会協議会と富良野市社会福祉協議会より、富良野市麻町で実施している麻町ふれあいサロン活動について報告がありました。サロンは平成14年に試行錯誤の中で開始、月1回第三水曜日に開催して、現在17年目を迎えています。当初は参加者9名、サロンの運営が11名でしたが、今では運営も含めて約70名が参加しています。サロンの経費は個人負担が2000円でしたが、より充実したサロン運営のため、今年から3000円を負担、残りの経費は社会福祉協議会の助成で行っています。サロンでは手作りの昼食、体操・健康教室、認知症予防の教室や小学生とのふれあいなど、工夫を凝らした運営を行っています。また、社会福祉協議会は地域づくりの原点が社会参加であることや声かけが万が一の災害救助につながる大事な原点という思いから、サロン活動に取り組んでいる町内会を全力で応援していくとのことでした。



その後の意見交換会では、各地域のサロン活動について情報交換があり、町内会の規模や体制の違いから効率的な活動ができていないことや、行政や社会福祉協議との連携の必要性等についての報告や意見が多く述べられました。

分科会

町内会の防災活動 について考える

道央
〜いつ起こるか分からない災害に備えて〜

はじめに、倶知安町樺山町内会を取り組んでいる災害時に必要な情報をまとめた防災データベースの作成と樺山地区防災計画策定委員会の取り組みについての報告がありました。防災データベースの作成では、住民の安否確認をスムーズに行うために、町内会の全世帯を調査対象に戸別訪問を実施して、要援護者の把握や避難誘導に必要な情報を収集し、データに蓄積しました。また、災害時に備えるため、樺山地区防災計画策定委員会を立ち上げ、災害時の避難経路などを示した防災計画の整備に取り組んでいるとの報告がありました。さらに、災害時に住民を孤立させないために、広報紙を通して防災の必要性の呼びかけを行い、町内会加入にも繋げているそうです。その後の意見交換では、参加者から、各地域で実施している防災の取り組みの報告がありました。昨年度の胆振東部地震の教訓を踏まえ、住民一人ひとりが防災に対する意識を持ち、災害時に備えたいと改めて確認がされた分科会となりました。



道東
〜災害に強いまちづくりを〜

はじめに、浜中町自治会連合会より、浜中町の行政における防災活動について説明がありました。浜中町では、防災会議を設置、防災計画を策定して活動を進めています。津波避難マップを作成し、津波浸水予想範囲や避難場所を記載して、町民全戸へ配布。さらに家庭用防災行政無線も全戸に配布し、町からの情報



を受信できるようにしています。また、非常食等の防災備蓄品を整備し、企業と災害時協定を結ぶことで物資援助を受けられるようにしています。毎年5月に津波防災避難訓練、秋にはDOHUG等の図上訓練を実施しているとのこと。続いて、自治会における防災活動について、浜中町で行っている津波防災避難訓練の参加や避難者名簿の作成、避難所運営などの訓練を行っていることや自主防災組織を結成しているとの報告がありました。

その後の意見交換では、自主防災組織と行政の連携、町内会での情報共有のあり方、個人情報取り扱いについて留意しながら進め、高齢者の支援などについては日ごろからのつながりが大事であることや民生委員との連携が欠かせないことについて意見や報告がありました。各地域の防災・減災に向けての対策が多数述べられ、熱のこもった意見交換会になりました。

道南
〜防災活動を女性の視点から考える〜

はじめに、北斗市町会連合会女性部より、連合会で実施している女性の視点から見た防災活動についての報告がありました。高齢化社会における町内会活動の果たす役割は大きく、女性部の参画なくして、地域福祉の充実は図れないとの考えから、北斗市町会連合会女性部は平成5年に設立されました。女性部の活動として、防災、ごみの減量化、リサイクルの推進など多岐にわたる活動を展開されています。また、女性ならではの視点から、防災活動の取り組みとして、炊き出し訓練と身近にあるものを活用した応急処置を学びました。炊き出し訓練では、災害救助用炊飯袋（ハイゼックス）を使用し、いつまで続くかわからない避難生活の中、限りある食材で100名を想定した肉じゃがやおにぎりを作ったとのこと。また、一般家庭にあるラップ等を利用したケガの処置について、防災専門官を講師に



迎え研修会を実施し、災害時の不安を少しでも解消するのに役立てているそうです。その後の意見交換では、昨年の北海道胆振東部地震で被害が大きかった安平町とむかわ町からの参加者から、災害支援のお礼があり、災害時の要援護者支援の体制の見直しについて報告のほか、各地域の防災・減災の事例が多数述べられました。

道北
〜防災組織づくりの必要性〜

はじめに、富良野市春日東町連合会より、防災組織づくりの必要性について報告がありました。富良野市では災害が少ないながらも災害ガイドマップを作成し、万が一、災害が発生した場合でも落ち着いて行動できるように備えています。また、自助努力で自分の身を守ることや共助、地域で助け合うことが必要だが、民生委員や町内会役員のなり手が不足。地域で守るには限界があるとのことから、災害時に参加率が高いサロンを立ち上げ、サロンの中から防災を進めていき、自主防災組織の結成に役立てているそうです。その後の意見交換では、共助の仕方や各地域の防災訓練の様子、個人情報の管理などについての意見や報告がありました。災害はいつ起こるかかわからない、10年後、20年後かもしれない。それに備えた訓練、組織づくりを繰り返し行うことが大切との考えが出されました。



町内会の育成について考える

道央
〜地域の絆をはぐくみ、地域で支えあう社会づくり〜

はじめに、倶知安町町内会連合会から、倶知安町町内会加入促進条例の制定に至った経緯についての報告がありました。倶知安町では多くの単位町内会

での加入率が下がり、あわせて役員
の担い手不足である現状を踏まえ、
町内会だからこそできる、ごみステ
ーションの管理や除排雪のほか、細
やかな日常の対応があるとして、俱
知安町と協議の結果、道内初の町内
会加入促進条例の制定に至ったとの
報告がありました。また、条例に基
づき、アパートの管理会社等による
町内会加入促進がすすめられており、現在は俱知安
町へ町内会加入促進のパンフレット作成を要望して
いるとのこと。その後の意見交換では、俱知安
町の外国人居住者や外国人観光客の増加への対応に
ついて多くの質問があり、外国人観光客へのコミュ
ニケーションについては俱知安町の観光協会を通し
て対応していることや、アパートの管理会社のオー
ナーが外国人の場合、行政で対応している等の回答
がありました。そのほか、行政職員が町内会活動に
参加しないことについての意見等があり、町内会の
役員不足についての議論がなされました。



道東
若い世代に参加してもらおう
町内会づくりのためにできることは

はじめに、釧路町連合町内会より、
町内会の現状と課題について、子ど
もたちの育成事業、高齢者の見守り、
防犯活動、清掃事業等に取り組む一
方で、高齢化や役員の担い手問題が
大きな悩みであることが報告されま
した。しかし、その中で毎年、防災
訓練、交流会などの行事を企画、運
営することは負担だけではなく、役
員全員で行うことで継続する力になっ
ています。
また、各町内会が工夫を凝らし、会員の交流親睦
をはかる場として町内会行事を企画し、楽しく交流
することが町内会の役員を引き受けてくれるきつ
かになっていくそうです。
町内会未加入世帯には役員が訪問し、町内会への
加入を働きかけることももちろん、町内会の活動や、



年間行事、防犯灯や資源ごみステーションの維持管
理を行っていること、町内会費が有効に使われてい
ることを簡潔に紹介したパンフレットを投函するこ
とで、「加入してみようかな」というきっかけを作
りたいとのことでした。
その後の意見交換では、男性ばかりでなく女性が
町内会に参加できる環境づくりの必要性や、町内会
員の減少に伴った合併問題、外国人居住者の加入促
進に向けた取り組みについての意見交換、町内会加入
率向上に向けた取り組みが報告されました。また、町
内会の加入促進には行政との連携が必要との意見が
ありました。

道南
誰もが安心して生活できる環境づくり

はじめに、北斗市ひまわり町会
より、誰もが地域で安心して暮ら
せる環境づくりとして、災害時に
外国人技能実習生も一緒にいった
避難訓練や意見交換会について報
告がありました。昨年の北海道胆
振東部地震発生の際に、町会に住
んでいる外国人技能実習生が、誰
とも連絡が取れずに不安になった
ことから、町会で実施している避難訓練に、外国人
技能実習生にも参加してもらいました。この参加
をきっかけに、町会で実施している児童との交流会
やもちつき大会、夏まつりへの参加のほか、母国と
の生活習慣の違いやゴミ出しについて「安心安全ミ
ーティング」も開催し、日ごろから交流を深めるき
っかけとなったそうです。



事例紹介後には、町会に居住する外国人への呼び
かけについて質問があり、民生委員が把握している
ことから、呼びかけ等に協力してもらっているとの
回答がありました。また、ひまわり町会の加入率が
92・6%であることから、どのような加入促進をし
ているのかという質問では、北斗市町会連合会、北
斗市、宅建協会との三者協定に基づき、情報提供を
受け、町会未加入世帯に対し、会長と役員とで根気
よく加入促進のための訪問をしているとの回答があ

りました。担い手不足などの問題もありますが、改
めて地域に住むすべての人が、互いに支えあい、安
心して暮らせる地域づくりの大切さが確認されまし
た。

分科会
町内会の環境・衛生
について考える

道北
「分ければ資源、混ぜればごみ」
ごみ分別に大きな関心

はじめに、富良野市より富良野市
のごみリサイクルについて報告があ
りました。富良野市のごみリサイク
ルは旧埋立処分場の閉鎖問題をきつ
かけとして、「分ければ資源、混ぜ
ればごみ」、「廃棄物分けて生まれ
新たな資源」を合言葉に分別による
資源化が始まり、現在の「燃やさな
い・埋めない」のごみリサイクル基
本理念のもと、市民、事業者、行政が協働し、豊か
な自然と人が共生するまちづくりを進めてきまし
た。その結果、生ごみをはじめとした3種の分別か
ら、今では14種の分別になり資源化率も95%になっ
ています。生ごみの分別を開始した当初は、市民生
活の中に「ごみ分別」という新たな作業を組み込ま
なくてはならず、多くの市民が「ごみ分別」を面倒
なことと感じていましたが、手間をかけた分別が生
活環境の場をクラスなどから守り、堆肥化された生
ごみが基幹産業である農業に活かされ、清潔で住み
よい生活環境をゆるぎなく続けられた「分別」とい
う協力により築き上げたことは大きな宝、誇りである
との声があがっており、今後も市民と行政の協働に
よる取り組みを大切に育んでいきたいとのことでした。
その後の意見交換では、ごみの分別や種類、市民
への説明方法など、ごみ問題に関する様々な意見や
事例の紹介があり、各地域でのごみ問題について話
し合いました。



ひとりの不幸もみのがさない 住みよいまちづくり全道運動

北海道町内会連合会では、町内会・自治会に、ひとり暮らしの高齢者等への見守り・声かけ・助け合い活動を実践していただくことを運動目標に「ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動」を平成2年度から北海道社会福祉協議会、北海道共同募金会の三者提唱によりすすめています。

6つの活動メニュー

- 1 啓発活動** (知る・知らせる)
 - ・悪質商法、詐欺被害防止研修会
 - ・健康教室
 - ・男の料理教室
 - ・交通安全教室 など
- 2 交流活動** (ふれあい・結ばれ)
 - ・ふれあいサロンづくり
 - ・ひとり暮らしの高齢者の交流会
 - ・三世交代交流会 など
- 3 在宅福祉サービス活動** (ささえあい)
 - ・声かけ訪問活動
 - ・除排雪活動
 - ・配食サービス活動
 - ・家事援助 など
- 4 ネットワークづくり** (みんながつながる)
 - ・災害時要援護者のための体制づくり
 - ・町内会助け合いチームづくり
 - ・防犯パトロール など
- 5 マンパワー養成** (組い手をつくる)
 - ・介護教室、ふまねっと運動研修会
 - ・認知症サポーター養成講座
 - ・ふれあいサロンサポーター養成講座 など
- 6 調査活動** (実態を知る)
 - ・高齢者ニーズ調査
 - ・ひとり暮らしの高齢者マップ調査
 - ・福祉台帳、カード作成 など

災害に強いまちづくり全道運動

北海道町内会連合会では、全国各地で度重なる台風や地震、豪雪、豪雨等による被災を教訓に、「災害に強いまちづくり」をテーマにした研修会等への助成事業を通じて、災害時に住民が助け合える安心・安全な地域づくりを推進しています。

研修会のメニュー

- 自主防災組織研修会や組織づくりのための会議
- 防災講習会、炊き出し訓練、防災マップづくり
- 災害図上訓練 (DIG)・避難所運営ゲーム (HUG)
- 応急手当研修会、救急手当研修会
- 災害時要援護者世帯調査・マップづくり
- 安心・安全関係者ネットワーク会議

『あなたをみまもりたい(サポータークラブ)』

～ボランティアを中心とした見守り組織～

滝川市滝の川町第24区町内会

滝川市滝の川町第24区町内会(145世帯)では、高齢世帯やひとり暮らしの高齢者の安全と安心を確保するため、ボランティアを中心とした、福祉活動を行う「あなたを見守り隊」を結成し、活動を行っています。75歳以上の高齢者世帯、65歳以上のひとり暮らしの高齢者の方を対象として、サポーター(11名)が担当した方を訪問。日常的な見守りのほか、2か月に1回の資源回収時には作業を手伝いながらの声かけを行っています。

また、胆振東部地震後には、対象世帯を訪問し、困ったことがないかの相談や、炊き出しの情報などを伝えながら、安否確認を行いました。

サポーターは見回りで気が付いたことを見守り活動記録簿に記録し、対象世帯が長期で家を空ける場合はサポーターに連絡してもらい、町内会長を中心として情報を共有。関係機関との連携をはかるなど、町内会全体で、日常的な支援体制、見守り活動が定着してきています。

今後はサポーターだけでなく、隣近所で助け合える体制を作るように、町内会全体の取り組みに発展させていきたいとのこと。



▲おそろいのユニフォームで見守り

『自主防災訓練』

～いざという時に備える～

せたな町都本通町内会

せたな町都本通町内会(53世帯)では、平成30年11月2日、せたな町が各家庭に配布している「せたな町防災ハンドブック」を使用して、自主防災訓練を行いました。

「せたな町防災ハンドブック」は、今後起こり得る自然災害での被害を最小減に食い止め、災害時に適切に対応できるようにと、災害時の危険区域や避難場所などを地図に示し、各種災害への備え等を掲載したハンドブックです。

訓練ではせたな町防災行政無線の放送を合図に「大成町民センター」へ避難を開始。避難の際には近所の高齢者世帯に声かけ、避難誘導を行いました。その後「せたな町防災ハンドブック」を使い、地震、災害への備え、津波ハザードマップの見方、風水害、土砂災害への備えについて知識を深めました。さらに避難所と指定緊急避難所の違いや、指定場所を確認することで、より具体的な研修ができました。

さらに、胆振東部地震での経験から、せたな町で全戸に設置している、防災無線受信機の点検と乾電池の交換を行い、防災無線を傍受できないことがないように、各世帯の点検をしました。この整備により、火事、通行止め、風水害等の「いざ」という時に、町からの様々な情報を確実に得ることができるようにになりました。



▲もしもに備える「せたな町防災ハンドブック」

令和元年度 町内会活動実践者研修会報告

シリーズ⑳

町内会の担い手育成と見守り活動

令和元年度町内会活動実践者研修会は、令和元年8月7日、札幌市において、道内各地から120名の参加を得て実施されました。本年度は、行政、企業、地域などの様々な組織や団体との連携を通して、見守り活動や町内会の育成、高齢社会における地域での関わり方について考えました。

実践報告①

町内会の担い手育成と見守り活動

札幌市豊平区豊平第12分区町内会の酒井秀男会長から、役員の担い手不足解消の取り組み、周辺施設との連携、見守り活動や広報活動について報告いただきました。



豊平第12分区町内会では、担い手不足の取組みとして、毎月発行の「町内会新聞」を通して、手の空いている時間に町内会のお手伝いをしてくれる「ささえ隊（サポート隊）」を募集。役員までではできないけど町内会の役に立ちたいと応募して頂き、積極

的に活動をサポートしてくれるようになりました。

また、周辺施設の「豊平若者活動センター」は、町内会に加入して頂き、さらに役員になってもらうことで、若い人の意見を聞くことができ、イベントの設営や町内会新聞の記事の提供など、今では町内会・連合町内会の行事では支援団体として活躍。「北海きたえーる」には、町内会に会館がないことから、会議室を借りることや、施設の夏祭りに出店するなどの協力体制ができています。また「豊平公園緑のセンター」からは、豊平公園祭りにおいて、スノーキャンドル、雪像の作成や流しそうめんの竹を提供してもらうなど助けてもらっています。

見守り活動では、以前はイベントなどを開く集合型でしたが、人が集まらないなどの問題があり、平成14年から訪問型に切り替えました。「お元氣ですか？」のメモと推進員の連絡先を書いた手紙、ごみ袋の3点セットを配付するなど「ふれあい訪問」を実施しています。また、そのほか小学校の夏休みに合わせて、「火の用心」を連呼しながら、20年以上町内を回って歩く地域の見守りも行っています。

広報活動では、町内会の活動を毎月「町内会新聞」を発行して伝えていきます。内容も懐メロや川柳・健康維持に関する記事(区の介護センター)を掲載し、関心をもってもらえるよう工夫しています。また、最近ではホームページやフェイスブックなど、インターネットを活用して、若い世代に見てもらえるようにしています。

最後に、町内会の周りの施設(団体)と上手に連携するためには、一方的な協力を求めるのではなく、その施設団体のイベントに参加し、少しずつ時間をかけて信頼関係を築きながら、お互いに協力して取り組むことが大切とのアドバイスをいただきました。

実践報告②

地域福祉活動事例集を活用した地域コミュニティ支援について

苫小牧市福祉部の牧野武博氏と大山憲一氏から、苫小牧市で取り組まれている地域の福祉活動を紹介した「地域活動事例集を活用した地域コミュニティ支援」について、報告をいただきました。

最初に苫小牧市の概要について説明があり、平成31年3月31日現在で、人口は17万1,493人、高齢化率は28・55%と4人に1人は高齢者の方が住んでいます。

苫小牧市を7つの生活圏域に分けた場合、西部と東部では高齢化率に大きな偏りがあるのが特徴で、地域の課題が、地域の状況や文化、特色に影響するので、異なってくるということが明らかになりました。

具体的な地域の課題として、高齢者のみ世帯の増加、ごみ出しに困っている世帯など多岐にわたるため、町内会・自治会で考え、取り組む時間がなかなか取れないことや、情報を共有する難しさを感じている地域もあることがわかりました。そこで、行政や社会福祉協議会と地域の連携が深まれば活動の役に立てると考え、地域福祉活動事例集を作成しました。

活動事例集は①見守り活動、②喫茶・サロン、③担い手育成・福祉教育、④男性料理教室・会食活動、⑤生活支援、⑥広報啓発活動の6つの分野に分けて





作成されています。事例集を作成して1年間で、「サロンを立ち上げたい」「町内会役員の情報共有に役立てたい」「地域の活動を紹介するために使用したい」との問い合わせがあり、地域に必要な情報だということがわかりました。

事例集の完成を受けて、次の年は地域コミュニティ形成の後押しに力を入れた活動を進めました。事例集を見て相談にきた町内会のサロンの立ち上げ支援や、他の町内会の活動に興味をもち、話しをしたということ、町内会同士の座談会も実現しました。さらに「ふくふく通信」を発行し、地域の皆さんの工夫した取り組みや熱い思いを紹介しています。また、苫小牧市の福祉部と市民生活部で福祉のまちづくりを推進していくために、市の職員として何ができるか、意見交換の場を設け、情報を共有することができました。

最後に、地域コミュニティ支援を通して実際に市の職員が地域に入り、地域でつかんだ声を生かしたことや事例集の作成が新たな活動につながったこと、行政や社会福祉協議会、地域が連携する大切さを確認できたことについての報告がありました。

講義

テーマ…地域の担い手育成と
地域連携ネットワーク

安全で安心して暮らせる地域づくりとは

講師…杉谷 憲昭氏

(健康生きがいづくり
アドバイザー北海道協議会)



●なぜ担い手がないのだろうか？

地域住民は連合町内会が何をどのような活動しているか、多分わからないと思います。そして何かを頼んでも、実際にやる人がいない。結局は誰がやるのかとなります。また、関わってしまうと辞めることができない。一番大きい原因は負担が増えるということ、連合町会に関わって人を住んでいる人達が一緒にどう支えるかだと思います。

時代が変わっています。時代の変化に連合町会として5年、10年過ぎてどうあるべきかを考えることが必要です。同じ世代だけではなく、若い世代、どういう世代が何を感じているのか？住んでいる人の生の声を聞き、把握していかないと自治会と住んでいる人達の間にギャップができてきます。そのため、町内会の運営を見直すことも大事なことと思っております。

●町内会（自治会）の住民同士の支え合い

単位町内会、自治会、大きな組織であっても、一番大事なのは住民同士の支え合いです。地域が家族

のように付き合いをしていく、『地域家族の時代』です。そのため3つの条件があります。

1つ目は「人間関係」一番大切なのは、挨拶。挨拶をし、話をして、顔見知りになっていく。見守りは監視ではなく、人間同士の温もりや地域での目配り、気配り、心配りが大事になります。

2つ目は「居場所」地域の中でサロンを作る。また、自分自身で居場所を探す、今日行くところが絶対必要です。これは行政にだけお願いするのではなく、ぜひ皆さんでサロンを作ってほしいと思います。

3つ目は「存在感」定年退職した人が社会参加してほしい。企業で色々な経験を積んだのにもったいない。色々なことができます。民生委員さん、社会福祉協議会との関係も大事。そして老人クラブの力を借りる。そういう人たちの存在感を維持して、どこに誰がいて、何ができるかを知っておくといいです。

●地域連携ネットワークの構築

高齢者の見守りとして、今までの民生委員さんや町内会長だけでは限界があります。民間事業者と連携による、複層的・重層的な見守り・安否確認システムが必要とされてきます。何日間も新聞がたまって異変、ヤクルトの配達での異変、コンビニでの買い物、何かおかしいなど感じたら連絡をもらう。個人情報、何か問題になります。個人情報と命とどちらが大事か。とにかくネットワークを作ることです。最後は地域包括支援センター、専門職がいまますので、社会福祉協議会、行政と連携し、できる範囲だけでもネットワークを作ってほしいと思っております。

北見市の三原忠さんが秋の叙勲・瑞宝双光章を受章されました

三原忠さん（北見市・北海道町内会連合会副会長）が瑞宝双光章を受章されました。晴れの伝達・拝謁式は、12月10日に執り行われました。

令和元年度地縁による団体功労者総務大臣表彰 受賞おめでとうございます



▲笹淵吉弘さん

令和元年度総務大臣表彰式が、去る11月29日、総務省講堂で行われ、本会から推薦の笹淵吉弘さん（札幌市）が永年の町内会活動の功績に対する表彰を受賞されました。

令和元年度全国自治会連合会会長表彰 受賞おめでとうございます

令和元年度全国自治会連合会表彰式が、去る10月30日、全国自治会連合会宮崎県宮崎大会の席上行われ、北海道からは原田武さん（富良野市）と室井常雄さん（江差町）が町内会活動の功績に対する表彰を受賞されました。



▲約1,000名が参加した宮崎県宮崎大会



▲原田さん（左）と室井さん（右）

防災ハンドブック（改訂版）のご案内 ～大切な家族を守るために～

本ハンドブックは、災害が起きてもあわてず落ち着いて行動できるように以前発行した「防災ハンドブック（保存版）」の内容に加え、シェイクアウト（一斉防災訓練）を含めた地震初動対応のポイント等を盛り込み、一部内容を改訂し、発行しました。在庫の範囲内で一部50円での頒布をお受けしていますので、ご希望の方は、本会事務局までご連絡ください。



今後の会議予定

- R 2年 2月18日 令和元年度市区町村町内会・自治会事務担当者会議／札幌市
- R 2年 5月26日 令和2年度全道町内会活動研究大会／札幌市
- R 2年 5月27日 令和2年度北海道町内会連合会総会／札幌市

台風等による大雨災害のお見舞い

台風第19号等による記録的な大雨は、関東・東北地方を中心に、大規模な河川の氾濫や家屋の倒壊などにより、多くの尊い命が失われるなど、大きな被害をもたらしました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

お願い ▶ 振込み手続きについて

会費や共済会費等の振込みは、本会の振込用紙（4連式・赤色）をご利用の上、振込手続きをお願いしております。振込手数料は、会員の皆様のご負担にならないよう、本会にて負担しておりますが、最近の振込手数料の値上げに伴い、手数料のほう振込金額を超えてしまい、振込金が返還される事例がございました。

振込用紙（4連式・赤色）をご利用いただく場合、本会の振込手数料が発生しない北海道銀行本店からのお振込みにご協力いただくようお願い申し上げます。※お近くに北海道銀行がない場合はゆうちょ銀行・郵便局をご利用下さい。

創立記念のお祝い 関係者の皆様おめでとうございます

- 創立50周年** 弟子屈町自治会連合会 様
会長 野田口昌明／昭和44年11月設立
- 創立40周年** 恵庭市町内会連合会 様
会長 下原 干城／昭和54年7月設立
- 創立30周年** 美深町自治会連合会 様
会長 本平 武士／平成2年11月設立

全道の町内会活動を支える 道町連共済のご案内 ～活動中の事故が多い冬に備えて～

- 安心して町内会活動に参加いただくために
道町連共済は、町内会・自治会活動中に事故にあわれた時、見舞金を支給する北海道町内会連合会の会員相互の助けあいの事業です。一人年200円の会費で最高200万円の見舞金を支給しています。
- 事故発生がもっとも多い冬に備えて
例年、広報や回覧板配付などの町内会活動中に、凍結路面で滑って転ぶ事故が多く発生しています。冬に備えて、道町連共済への加入の検討をぜひお願いします。

●お問合せ先

北海道町内会連合会
TEL 011-271-3178 Fax 011-271-3956
詳細はホームページで [北海道町内会連合会](#) [検索](#)

